

9月1日は「防災の日」

地域で高める防災意識

9月1日は関東大震災が発生した日であり、台風や豪雨などの災害について認識を深め、備えを強化する日とするため「防災の日」とされています。さまざまな自然災害が全国各地で発生し、大きな被害をもたらしています。この機会に一人一人が災害への認識を深めて、防災意識を高めましょう。

日頃からの備えを

災害は、いつどこで起こるか分かりません。万が一のときに備え、日頃から準備をしておきましょう。

● 水・食料(3日分、できれば1週間分)、懐中電灯、モバイルバッテリー、マスク、消

毒液、体温計、歩きやすい靴などを用意しておく。

● 避難所までの経路を確認する。

● 家族と災害発生時の安否確認の方法や集合場所を話し合う。

● 帰宅経路やコンビニ、ガソリンスタンドの位置を確認する。

● 携帯ラジオや地図を持ち歩く。

警戒レベルの確認

台風や大雨などの風水害の危険が迫ってきた場合に、防災行政無線や防災メールなどで状況に応じた「警戒レベル」の避難情報をお知らせします。ハザードマップなどで、自宅周辺の安全性を確認して、避難すべきか判断しましょう。

※避難情報は、対象地区の危険な場所にいる人を対象にして

います。対象地区全員の避難を示すものではありません。新川水系の洪水浸水想定区域図が公表されました

河川が氾濫した場合に市内の浸水が想定されるのは「利根川水系黒部川」と

「新川水系新川・七間川」です。洪水浸水想定区域は千葉県ホームページで確認してください。



千葉県ホームページ

避難先を見直そう

避難所は密閉した空間に多くの人が密集するため、感染症が拡大するリスクが高まります。

指定の避難所だけでなく、安全な場所に住んでいる親戚や友人宅などへの避難についても検討しましょう。

避難所での感染症対策

避難所では入室前に受付で検温や体調の確認を行います。発熱や咳の症状がある場合は別室に案内します。

体育館やホールなどの大きな避難所では間隔を設けて運営します。エアコンがある施設ではテントを使用して避難スペースの区分を行います。

避難所ではマスクの着用や咳エチケット、小まめな手洗いなど、基本的な感染症対策を徹底してください。

避難所を増やして開設

避難所での密集を防ぐため、風水害のときには、避難所を増設します。

避難所一覧

- 総合体育館
- 海上公民館
- 旭市保健センター
- ひかた市民センター
- 一中体育館
- 海上中体育館
- 飯岡中体育館
- ふれあいセンター

災害が発生したら

多くの人が一斉に帰宅を始めると、火災や建物からの落下物などにより負傷する危険性が高まるほか、救助・救急活動の妨げとなります。まずは身の安全を確保し、職場や集客施設などの安全な場所にとどまりましょう。

問い合わせ先

総務課地域安全班

☎ 62・5311

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保

警戒レベル4までに必ず避難

4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)



土砂災害ハザードマップ



旭市防災マップ



防災行政無線の内容確認



防災メールの登録